

県立高校再編整備候補案について

【第2通学区】

通学区全体	<ul style="list-style-type: none"> ・第2通学区の中学校卒業生数は、平成2年の6,376人のピークに比べ平成31年には、3,624人(平成2年比56.8%)と、減少することが見込まれる。 ・総数決定基準に基づき、全日制を17校から15校に再編整備することが必要となる。 ・第5区では、中学校卒業生数が、平成17年に比べ平成31年には78.9%程度に減少する。現在6校で、1学年平均7.67学級であるが、平成31年には1学年平均6学級程度になることから、現在の学校数を維持することが適切である。
-------	--

望月高校、蓼科高校の統合																																																																				
<div>望月高校</div> <div>沿革</div> <div>・大正 15 年(組)長野県望月実科高等女学校</div> <div>・昭和 17 年(組)望月中学校</div> <div>・昭和 24 年(県)長野県望月高等学校</div> <div>設置学科及び生徒数</div> <div>・全日制普通科</div> <div>・生徒数</div> <div>1 年 67 人、2 年 82 人</div> <div>3 年 64 人、計 213 人</div> <div>蓼科高校</div> <div>沿革</div> <div>・明治 33 年(組)蓼科実業補習学校</div> <div>・明治 44 年(郡)蓼科乙種農学校</div> <div>・昭和 24 年(県)長野県蓼科高等学校</div> <div>設置学科及び生徒数</div> <div>・全日制普通科</div> <div>・生徒数</div> <div>1 年 119 人、2 年 116 人</div> <div>3 年 109 人、計 344 人</div>	<div>【生徒数の状況】</div> <div>・第 6 区の中中学校卒業生数は、平成 17 年の 2,362 人に対し、平成 31 年には、1,924 人となることが予想される。438 人の減少でおよそ、81.5%となる。また募集学級数も 51 から 41 と 10 学級程度減少すると推定される。</div> <div>・現在の学校数 11 校を維持した場合、平成 31 年度には各校の平均募集学級数は 3.73 と小規模化が進むため、学校数を 9 校程度にすることが適切である。</div> <div>【流入】</div> <div>・平成 17 年度第 6 区から第 5 区への流出は 187 人(公立 158 人、私立 29 人)であった。また第 5 区からの流入は 214 人(公立 171 人、私立 43 人)であり、流入が 27 人多くなっている。</div> <div>・特に、しなの鉄道沿線において流出・流入とも多い。また、蓼科高校は上小地域と隣接していることから、平成 17 年度においては、上小地域から 52 人入学している。</div> <div>【入学者の状況】</div> <div><div>(望月高校入学者の状況)</div><table><tr><th></th><th>平成 15 年</th><th>平成 16 年</th><th>平成 17 年</th></tr><tr><td>募集定員</td><td>120</td><td>120</td><td>80</td></tr><tr><td>入学者数</td><td>82</td><td>86</td><td>63</td></tr><tr><td>充足率</td><td>68.3%</td><td>71.7%</td><td>78.8%</td></tr></table></div> <div><div>(蓼科高校入学者の状況)</div><table><tr><th></th><th>平成 15 年</th><th>平成 16 年</th><th>平成 17 年</th></tr><tr><td>募集定員</td><td>120</td><td>120</td><td>120</td></tr><tr><td>入学者数</td><td>123</td><td>121</td><td>118</td></tr><tr><td>充足率</td><td>102.5%</td><td>100.8%</td><td>98.3%</td></tr></table></div> <div><div>(平成17年度望月高校、蓼科高校の中学別入学者の状況)</div><table><tr><th></th><th>望月高校</th><th>(割合)</th><th>蓼科高校</th><th>(割合)</th></tr><tr><td>望月中 立科中 浅科中</td><td>29</td><td>46.0</td><td>57</td><td>48.3</td></tr><tr><td>北御牧中 依田窪南部中</td><td>3</td><td>4.8</td><td>20</td><td>16.9</td></tr><tr><td>その他第5区中学</td><td>13</td><td>20.6</td><td>32</td><td>27.1</td></tr><tr><td>その他第6区中学</td><td>18</td><td>28.6</td><td>8</td><td>6.8</td></tr><tr><td>その他学区中学</td><td></td><td></td><td>1</td><td>0.8</td></tr><tr><td>計</td><td>63</td><td>100.0</td><td>118</td><td>100.0</td></tr></table></div>		平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	募集定員	120	120	80	入学者数	82	86	63	充足率	68.3%	71.7%	78.8%		平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	募集定員	120	120	120	入学者数	123	121	118	充足率	102.5%	100.8%	98.3%		望月高校	(割合)	蓼科高校	(割合)	望月中 立科中 浅科中	29	46.0	57	48.3	北御牧中 依田窪南部中	3	4.8	20	16.9	その他第5区中学	13	20.6	32	27.1	その他第6区中学	18	28.6	8	6.8	その他学区中学			1	0.8	計	63	100.0	118	100.0
	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年																																																																	
募集定員	120	120	80																																																																	
入学者数	82	86	63																																																																	
充足率	68.3%	71.7%	78.8%																																																																	
	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年																																																																	
募集定員	120	120	120																																																																	
入学者数	123	121	118																																																																	
充足率	102.5%	100.8%	98.3%																																																																	
	望月高校	(割合)	蓼科高校	(割合)																																																																
望月中 立科中 浅科中	29	46.0	57	48.3																																																																
北御牧中 依田窪南部中	3	4.8	20	16.9																																																																
その他第5区中学	13	20.6	32	27.1																																																																
その他第6区中学	18	28.6	8	6.8																																																																
その他学区中学			1	0.8																																																																
計	63	100.0	118	100.0																																																																

(平成16年度中学校卒業者の進学状況)

	望月高校	蓼科高校	第6区高校 (2校を除く)	第5区 高校	その他 学区高校	計
望月中学 (割合)	23 23.5	14 14.3	53 54.1	4 4.1	4 4.1	98
立科中学 (割合)	1 1.4	34 47.9	20 28.2	16 22.5		71
浅科中学 (割合)	5 5.7	9 10.2	71 80.7	2 2.3	1 1.1	88
北御牧中学 (割合)	3 6.1	6 12.2	14 28.6	26 53.1		49
依田窪 南部中学 (割合)		14 13.6	9 8.7	75 72.8	5 4.9	103
計	32	77	167	123	10	409

【地理的状況】

- ・望月高校と蓼科高校の距離は6.7km程度である。
- ・望月地区と立科町の間は路線バスで結ばれており、所要時間は13分程度。特に通学時間帯には蓼科高校まで路線が延長されている。
- ・上小の依田窪地域から立科町（蓼科高校）へは、バスの便がある。

【総括】

- ・生徒数の減少や、流入の状況から、一定規模の生徒数を確保して充実した教育環境を整えるために、望月高校と蓼科高校を統合する。
- ・平成16年度望月中学校卒業者の14%程度が蓼科高校へ進学していることや、半数以上が小諸・佐久市内高校に進学していることなどから統合により著しく通学が困難な状況にはならないと推測される。
- ・統合後は入学する生徒の通学範囲等から、蓼科高校の校舎・校地を活用していく。

【再編後のイメージ】

- ・現在両校で行っているコース制による教育を統合後の新たな学校でスケールメリットを活かして、生徒の期待に応えられるよう充実発展させていく。
- ・両校の特色あるクラブ活動なども統合によりさらに充実・活性化させていくことが期待できる。
- ・2校がそれぞれ培ってきた地域との連携をさらに深めていく。

【近隣校の状況】

- ・北佐久農業高校は第2通学区における農業教育の中心の学校として更に充実していく。
- ・岩村田高校は普通科、工業科を設置しており、佐久地域の生徒の学びの選択肢としていく。

野沢南高校の多部制・単位制高校への転換

野沢南高校

沿革

- ・明治 44 年(町)野沢実科高等女学校
- ・大正 7 年(郡)野沢高等女学校
- ・昭和 23 年(県)長野県野沢南高等学校
- ・昭和 26 年定時制課程普通科
- 設置学科及び生徒数
- ・全日制普通科
- 定時制普通科
- ・生徒数
- 全日制普通科
- 1 年 243 人、2 年 271 人
- 3 年 274 人、計 788 人
- 定時制普通科
- 1 年 19 人、2 年 17 人
- 3 年 18 人、4 年 13 人
- 計 67 人

【生徒数の状況】

- ・第 6 区の中学校卒業生数は、平成 17 年の 2,362 人に対し、平成 31 年には、1,924 人となることが予想される。438 人の減少でおよそ、81.5%となる。また募集学級数も 51 から 41 と 10 学級程度減少すると推定される。
- ・現在の学校数 11 校を維持した場合、平成 31 年度には各校の平均募集学級数は 3.73 と小規模化が進むため、学校数を 9 校程度にすることが適切である。

【流出入】

- ・平成 17 年度第 6 区から第 5 区への流出は 187 人(公立 158 人、私立 29 人)であった。また第 5 区からの流入は 214 人(公立 171 人、私立 43 人)であり、流入が 27 人多くなっている。
- ・しなの鉄道沿線に比べ、佐久地域では流出・流入とも比較的少ない状況である。

【入学者の状況】

- ・全日制課程では志願倍率は 1.0 倍を越え、入学者数も募集定員を満たしている。また定時制課程では近年 3 割から 5 割程度の充足率で推移している。

(平成16年度佐久市内中学校卒業生の進路状況)

中学校	野沢南 高校	第 6 区 高校	第 5 区 高校	その他地 区高校	計
浅間中学	27	174	9	5	215
割合	12.6	80.9	4.2	2.3	
野沢中学	38	155	3	3	199
割合	19.1	77.9	1.5	1.5	
中込中学	26	114	5	1	146
割合	17.8	78.1	3.4	0.7	
佐久東中学	16	87	11	1	115
割合	13.9	75.7	9.6	0.9	
臼田中学	24	118	2	6	150
割合	16.0	78.7	1.3	4.0	
望月	14	76	4	4	98
割合	14.3	77.6	4.1	4.1	
浅科	20	65	2	1	88
割合	22.7	73.9	2.3	1.1	
計	165	789	36	21	1011

(平成17年度入学者の状況)

	全日制	(割合)	定時制	(割合)
浅間中学	27	11.2	1	5.6
野沢中学	38	15.7	2	11.1
中込中学	26	10.7	5	27.8
佐久東中学	16	6.6	1	5.6
臼田中学	24	9.9		
望月中学	14	5.8	1	5.6
浅科中学	20	8.3		
その他第 6 区中学	76	31.4	6	33.3
その他学区中学	1	0.4	2	11.1
計	242	100.0	18	100.0

	<p>【地理的状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐久地域の中心に位置し、小諸、北佐久、南佐久地域の広域から通学が可能である。 ・小海線中込駅から徒歩 15 分程度の距離である。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多部制・単位制高校は、広域な地域から生徒が通学しやすいことに配慮する必要があるため、立地条件の良い学校を転換する必要がある。 ・第 1 通学区の多部制・単位制高校が坂城高校である場合、上小地区から坂城高校に通学可能であることを考慮すると、第 2 通学区の多部制・単位制高校は交通の利便性が良く、佐久地区の広域から通学可能である野沢南高校を転換していくことが適切である。 ・現在も定時制課程が設置されており、現有の給食設備等も有効に活用できる。 <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転換に際しては、午前部、午後部、夜間部の昼夜開講の三部制とすることで、全日制と同様な時間帯に学ぶことができ、所属する部以外の授業を履修することにより 3 年間で卒業することも可能である。 ・多様な学習歴、生活歴のある生徒を含め入学してくる生徒の向学心を高め、生徒が希望する進路が実現できる高校としていく。 ・幅広い教養や職業に関する知識・技術を習得するための講座の開設や外部講師を招へいするなどの工夫をして、地域の方からも学習者を募集し、生涯学習の場を提供していく。 ・第 1 通学区に設置される多部制・単位制高校や小諸商業高校定時制とも連携を深めていく。また第 1 通学区の多部制・単位制高校の通信制課程のスクーリング会場等として活用を図る。 <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野沢北高校は第 2 通学区の理数教育の中心的な学校として、今後も特色を伸ばしていく。 ・臼田高校は佐久市内では最も南に位置しており、南佐久地域の生徒の通学に配慮して配置し、普通科をより充実させていく必要がある。 ・小海高校は南佐久郡でただ 1 校の配置であり、地勢や交通の利便性に配慮し地域の生徒の進学先として配置しておく必要がある。
--	--

丸子実業高校を総合学科高校に転換

丸子実業高校

沿革

- ・明治 45 年(組)丸子農商学校
- ・大正 14 年(町)丸子実科高等女学校
- ・昭和 23 年(県)長野県丸子実業高等学校

設置学科及び生徒数

- ・普通科、応用生物科、建設工学科、商業科、被服科

生徒数

普通科

1 年 123 人、2 年 115 人

3 年 105 人、計 343 人

応用生物科

1 年 41 人、2 年 32 人

3 年 37 人、計 110 人

建設工学科

1 年 39 人、2 年 32 人

3 年 28 人、計 99 人

商業科

1 年 81 人、2 年 75 人

3 年 55 人、計 211 人

被服科

1 年 40 人、2 年 38 人

3 年 20 人、計 98 人

【生徒数の状況】

- ・第 5 区の中学校卒業生数は、平成 17 年の 2,154 人に対し、平成 31 年には 1,700 人となることが予想される。454 人の減少でおよそ、78.9%となる。また募集学級数も 46 から 36 と 10 学級程度減少すると推定される。
- ・現在 6 校で、1 校平均 1 学年 7.67 学級であるが、今後の生徒数の減少により、1 学年 6 学級程度になることから現在の学校数を維持していくことが適切である。

【流出入】

- ・平成 17 年度第 5 区から第 6 区への流出は 214 人(公立 171 人、私立 43 人)、第 6 区からの流入は 187 人(公立 158 人、私立 29 人)であり、流出が 27 人多くなっている。
- ・第 5 区から第 4 区への流出は、98 人(公立 79 人、私立 19 人)、第 4 区からの流入は 165 人(公立 127 人、私立 38 人)で流入が 67 人多い。

【入学者の状況】

- ・過去 3 年間の入学者の状況は募集定員 320 人に対し、平成 15 年度 283 人(88.4%)、平成 16 年度 315 人(98.4%)、平成 17 年度 320 人(100%)である。

(平成 17 年度通学区別入学者の状況)

学区	第 3 区	第 4 区	第 5 区	第 6 区	第 8 区	第 9 区	第 11 区	第 12 区	県外	合計
入学者数	3	17	271	17	2	2	3	3	2	320

(平成 16 年度中学校卒業生の進学状況)

	丸子実業 高校	第 5 区高校 (丸実を除く)	第 6 区 高校	その他 学区高校	計
丸子中学 (割合)	33 36.7	42 46.7	11 12.2	4 4.4	90
丸子北中学 (割合)	27 20.6	76 58.0	12 9.2	16 12.2	131
和田中学 (割合)	7 26.9	13 50.0	5 19.2	1 3.8	26
依田窪 南部中学 (割合)	20 19.4	55 53.4	23 22.3	5 4.9	103
計	87	186	51	26	350

【地理的状況】

- ・大屋駅から路線バスを利用して 15 分程度である。
- ・大屋駅までは、小諸駅から 13 分程度、上田駅からは 6 分程度の移動時間であり、通学圏は比較的広範囲となる。

【総括】

- ・現在丸子実業高校には普通科、農業科(応用生物)、工業科(建設工学)、商業科、家庭科(被服)の 5 学科が設置されており、また各専門学科とも、それぞれの実験・実習設備の整った実習棟を保有して

	<p>いることから、総合学科に転換した後も、それらの施設設備の有効利用が可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科4コース（文系進学、理系進学、教養進学、スポーツ福祉）応用生物科3コース（グリーンライフ、フラワーサイエンス、バイオセラピー）建設工学科2コース（土木工学、緑地工学）商業科3コース（進学、ビジネス、情報処理）被服科2コース（服飾デザイン、生活デザイン）の14のコースからなる県内でも最大規模のコース制を敷いていることから、多彩な教育内容を活かして多様な系列を持つ総合学科をつくることが可能である。 ・現在も地域において丸子実業高校の多様な教育内容に対して期待も大きいことから、今後総合学科に転換した際も、地域からの様々な協力や支援が期待できる。 ・地域の産業界・商工会等と連携を深め、地域のなかで体験的な活動を行うなど、実践的で多様な教育内容を含んだ系列をつくることが可能である。 ・しなの鉄道大屋駅から、15分程度の交通の利便性があり、比較的広範囲から生徒が通学することが可能である。 <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の系列としては、例えば、人文社会系列、自然科学系列、ビジネス商業系列、農業系列、工業系列、生活・家政系列、スポーツ系列などが挙げられる。 ・現在もクラブ活動等においても実績をあげており、学校の魅力づくりのひとつとして引き続き充実した活動を展開していくことが期待できる。 <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上田市内の4校と東部高校は、今後の中学校卒業者数の推移から1学年6学級程度になっていくことから、現状を維持していくことが適切である。
--	--

上田千曲高校定時制・上田高校定時制と野沢南高校（多部制・単位制）
坂城高校（多部制・単位制）の再編

上田千曲高校

沿革

- ・大正 6 年(町)上田女子実業補習学校
- ・昭和 23 年上田市立高等学校
- ・昭和 24 年(県)長野県上田千曲高等学校
- ・昭和 36 年定時制機械科設置学科及び生徒数
- ・全日制工業科、商業科家庭科
- ・定時制工業科(機械科)
- ・生徒数（定時制）
1 年 23 人、2 年 10 人
3 年 6 人、4 年 9 人
計 48 人

上田高校

沿革

- ・明治 11 年上田変則中学
- ・明治 33 年(県)上田中学校
- ・昭和 23 年(県)長野県上田松尾高等学校
- 同年定時制普通科
- 設置学科及び生徒数
- ・全日制普通科
- ・定時制普通科
- ・生徒数（定時制）
1 年 32 人、2 年 27 人
3 年 23 人、4 年 21 人
計 103 人

【入学者の状況】

- ・上田千曲高校定時制、上田高校定時制とも、平成 17 年度入学者の 8 割以上は第 5 区から入学している。
- ・上田高校定時制は近年 30 人前後の入学者数で推移している。

（平成17年度入学者の状況）

高校名	第 3 区	第 4 区	上田市	東御市	小県郡	第 6 区	計
上田千曲			15	1	3	3	22
上田	1	3	17	2	7	1	31

（第 1・2 通学区定時制課程の募集定員・入学者数・在籍者数の推移）

高 校 名	平成13年度			平成14年度			平成15年度			平成16年度			平成17年度		
	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数
中野実業	40	8	26	40	13	33	40	7	34	40	11	29	40	24	47
須 坂	40	17	45	40	9	45	40	11	42	-	-	29	-	-	15
長野吉田	40	7	22	40	7	23	40	4	25	40	5	27	40	8	19
長 野	40	24	74	40	22	77	40	18	70	40	26	90	40	31	93
長野商業	80	27	104	80	25	103	80	33	113	80	24	114	80	30	120
長野工業	80	21	70	80	20	79	80	32	94	80	27	103	80	25	107
篠ノ井	40	9	35	40	13	41	40	18	40	40	20	50	40	27	72
小 計	360	113	376	360	109	401	360	123	418	320	113	442	320	145	473
上田千曲	40	12	33	40	10	38	40	12	39	40	10	37	40	22	48
上 田	40	33	80	40	28	94	40	31	96	40	26	103	40	31	103
小諸商業	40	8	34	40	13	41	40	16	44	40	12	49	40	17	57
野 沢 南	40	13	50	40	11	51	40	19	60	40	14	62	40	18	67
小 計	160	66	197	160	62	224	160	78	239	160	62	251	160	88	275
合 計	520	179	573	520	171	625	520	201	657	480	175	693	480	233	748

【地理的状況】

- ・上小地域から坂城高校へ通う場合、しなの鉄道坂城駅までの所要時間は、上田駅から 11 分、田中駅から 21 分程度であり、上小地域からの坂城への通学の便はよい。
- ・野沢南高校へ通う場合、小諸駅から中込駅までは、29 分程度で移動できる。

【総括】

- ・定時制に通う生徒は多様化しており、夜間部でなければ通えない生徒は減少傾向にある。自分のライフスタイルにあわせて、学ぶ時間帯を選択できることや、多様な選択科目から受講できることなど多部制・単位制高校に統合するメリットは大きい。
- ・地理的な状況から上田千曲高校定時制、上田高校定時制は第 1 通学区に設置される多部制・単位制の坂城高校に統合していくことが適切であるが、第 2 通学区に設置される多部制・単位制の野沢南高校も選択肢のひとつとしていくことが可能である。
- ・再編により上小地域の定時制に通う生徒にとって、交通の利便性から著しく通学が困難な状況にはならないと推測される。

【再編後のイメージ】

- ・多様な生徒に対応するために、多部制・単位制高校においても柔軟な教育方法を工夫することが重要である。
- ・統合後の定時制には、生徒のニーズにより、空き教室を利用した相

	<p>談室を設置し、居場所づくりやカウンセリング体制づくりに配慮していく。</p> <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6区の小諸商業高校には現在定時制が設置されているが、距離的に坂城高校及び野沢南高校と離れていることから引き続き定時制を設置していく。その際、坂城高校や、野沢南高校と連携を図っていく。
--	---

